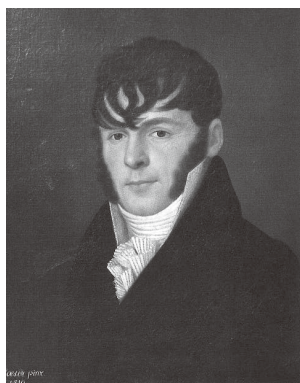


ずは彼の生涯をみてみよう。

### 詩と散文の抗争

父フリードリヒ・アウグスト・ゴットロープ・シューマン（一七七三～一八二六）は牧師の子で商人となることを要請されたが、文学への思い断ちがたく、出版社の手伝いの職を得る。外科医の娘ヨハンナ・クリスティアーネ・シュナーベル（一七六七～一八三六）と知り合うが、経済的な不安定さから結婚には反対された。そこで一念奮起し、結婚資金を文筆業で得ることを計画し、一年半でそうとうな額をかせぎだした。そこにはのちのち商人のあいだでよく知られることになる『商人便覧要約』（全四巻）が含まれている。一七九五年、二人は結婚し、五児をもうけた。

一八一〇年に生まれたローベルトは末っ子で、長女エミリーは皮膚病を患い、うつ状態となつて一八二五年に飛び降り自殺をしたというが、チフスで死んだとも、入水自殺したともいわれている<sup>10</sup>。兄三人もそれぞれ二八歳、四〇歳、四八



母ヨハンナ・クリスティアーネ（左）と父フリードリヒ・アウグスト・ゴットロープ（いずれも L. グレーザーによる油彩画、1810）